

十神山



# 会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

☎692-0064  
島根県安来市古川町534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
http://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

## — 大師範 (8名) —

唄	絃	唄	鼓	唄	踊	絃	唄
岡	奥	小	佐	岩	一	持	入
	村	林	藤	崎	宇	田	江
		貞	勉	美	保	順	訓
		子	子	智	成	子	子
		(津ノ井)	(湖陵)	(飯南)	(本部道場)	(本部道場)	(本部道場)
		明(鳥取中)					
		喜久子(江田島能美)					

(代議員会資料名簿順)

## — 准名人 (2名) —



山崎 真由美  
絃の部 (益田)



今岡 淑子  
唄の部 (本部道場)

## — 名人 (1名) —



須田 茂善  
絃の部 (斐川)

### 上位昇格者

11月14日に開催された安来節保存会代議員会において、平成27年度の上位昇格者と被表彰者が報告されました。今回、須田茂善さんが、絃の部では9年ぶりの名人となられ、准名人に2名、大師範に8名の方が昇格されました。おめでとうございます。  
来年の1月10日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

## 会員表彰者

(39名)

野口 峯子 (本部道場) 一宇川 耕士 (本部道場) 田中 美幸 (本部道場) 神崎 京子 (飯南) 来間 幾夫 (出雲) 大屋 勉 (石見) 熊谷 静枝 (大田) 佐藤 さおり (加茂) 永瀬 輝夫 (神門) 吾郷 勲 (湖陵) 高見 克江 (湖陵) 宮藤 百合子 (津和野) 井上 俊子 (仁多) 佐々岡 常喜 (浜田中央) 神門 久恵 (斐川) 高橋 テル子 (平田) 西村 栄市 (益田) 長谷川 恭子 (松江) 小豆澤 玲子 (松江) 加藤 速美 (尾高) 絹見 富美子 (東伯) 田中 喜美子 (鳥取) 水田 実男 (米子) 武良 智恵子 (米子) 森 灘 節代 (米子中) 一宇川 雅彦 (江田島能美) 清岡 千鶴 (江田島能美) 高橋 康代 (広島) 山下 俊子 (広島玉実) 計田 博男 (広島東) 山崎 正登 (宮島) 藤原 淑子 (岡山) 板井 行勝 (岡山) 一宇 英紀 (津山中央) 大野 良雄 (山口) 高木 妙 (関西) 進藤 聖子 (関西) 井村 恵一 (神戸) 濱先 未朋 (静岡)

## 私と安来節

### 年齢に発声と思いつきの安来節



資格審査員  
上代 安夫  
(松江支部)

安来節は音階の高低の差の広い、難しい民謡、それだけ奥が深く面白い。

私が本格的に始めたのが二十八歳、我流を基礎から直されたが、「我流の中に個性がある」と言われ、少々救われる思いだった。当時、若い人も多く、年配者はプロで個性豊かな方々だった。民謡はメリハリの利かせ所と面白く小節を聞かせる所等、声の使い分けが大切だと思う。声楽家の先生によると「高音は歌唱に使える正しい発声の裏声を上手に使いなさい」との事、声の衰えは誰にでもあり、積み重ねた年輪の味でカバーするしかないと思う。私は職業上の職人気質なのか安来節も気に入るまで、また生涯現役でと思い、八十歳を過ぎた今でも若い頃のように唄いたく、その日、その時を余力残さず精魂込めて唄う事している。そして一年、一日でも長く唄い続けたいと思っております。

## 大小鼓製造卸販売



# 杉本 鼓 店

住所：島根県松江市馬潟町360-13  
電話・FAX：0852-37-2033  
E-mail：ks36013@web-sanin.co.jp

※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。修理、下取りもご相談ください。

# (有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1  
TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

# 松江藩家老 大橋筑後あわや切腹

—山陰道鎮撫使騒動記— ⑤  
並河 健 蔵

徳川時代が終ろうとする慶応三年、松江・松平藩にとっては思いもかけない一大騒動が起きた。世にいう山陰道鎮撫使事件である。

この年十月徳川幕府第十五代將軍の徳川慶喜は遂に大政を奉還し、十二月には新政府による王政復古の大号令が発せられた。松江藩は將軍家に近い松平家であり、將軍家に対する「孝敬」と新政府に対する「忠勤」との矛盾に苦悩していた。新政府はこの態度の曖昧な松江藩に圧力をかけるべく、翌年の慶応四年一月、西園寺公望を総督とする山陰道鎮撫使を派遣して取り調べさせることにした。ところがさらに事件を複雑にしたのは①松平藩主の松平定安が新政府に忠勤を誓うために京都へ上洛の折、西進する鎮撫使一行を迎えて勤王の挨拶をするべき処、別の道を通ったこと、②鎮撫使一行が西進途次の滞在所に近い丹後の宮津港に、松江藩の軍艦が損所の修理のために二度も寄港したこと、などが「其意不審」として疑惑を深めることになり、松江藩は思わぬ窮地に立たされてしまったのである。新政府は官軍の名をもって次の四か条から一つを選んで謝罪せよと強く迫ったのである。

- 一、出雲国の半分を朝廷に返上する。
- 二、重役が死をもつて謝罪する。
- 三、藩主の嗣子を入質として差し出す。
- 四、国境（現在の鳥取・島根の県境）で官軍を迎え打って戦う。

そこで松江藩では藩主不在で混乱のなか緊急に重役協議の結果第二条を選び、家老の大橋筑後が死をもって謝罪し、忠誠を示すこととなり、安来で切腹して検使を待つことにした。松江藩にとっては苦渋の決断であった。

鎮撫使は鳥取・薩摩・長州三藩の藩士で構成された四百四十名を率いて、松江城へ向かってひたすら西進し、二

月二十四日米子に到着した。本営は下鹿島家におかれ、堀外幕は紫の三つ巴、格子の間及び内玄関は二紺三白幕が張りめぐらされた。総督西園寺公望は、立烏帽子、白装束で馬上にあり「鎮撫総督」の旗を押し立てて到着した。鎮撫使一行の滞りは、警備の物々しさもあって、米子の町は緊迫した様相を呈した。

松江藩の領内最初の宿泊日が迫った安来の町では、送迎態勢に万全を期さなければならなかった。四百名を越える一行の宿泊先の割付、寝具や食料の調達、料理人、髪結人、給仕などの手配に大わらわとなり、町中の道路は清掃して砂撒きをした。町民には外出や荷物の運搬などを慎むよう諭すのに懸命であった。このような緊急事態とはつゆ知らず米子へ出向いた者は直ちに追い返され、国境の番所を通らず、密かに中海を小舟で帰った者もいたという。松江藩では隣の広瀬藩からも人夫三百人、寝具数百枚の応援を求めるといふ騒動に立ち至ったのである。

このような緊迫した事態の中で、家老大橋筑後は二月二十四日朝、事件の弁明と謝罪をしようと米子へ向かったが、国境の番所（現在の米子市陰田町）では厳重な取締りで容易に通過できず、駕の中で待機することになった。夕暮れ近くになって漸く番所の通過を許され、鎮撫使に面談して、松江藩への疑義をひたすら弁明して謝罪したのである。その結果、鎮撫使は大橋筑後の切腹を免じたのである。

この報せを受けた松江藩では一転、安堵したものの、安来ではそのことを知らせれず一行の宿泊が真近かとなり、引続き緊迫した状態に終始した。ところが一件落着いた一行は米子に留まり遊興にふけた。西園寺総督は中海に舟を浮かべて、曳網を見物し、薩長隊らは料亭で酒びたりと相成った。そのため二十八日に至って漸く米子を出発し安来泊りの予定を急遽変更し素通りして夕方、松江に到着したのである。あつげにとられた安来の町の住民や関係者たちの心情はどんなであったろうか。

# 私と安来節



副指導部長  
松村益男  
(石見支部)

昭和十九年、尺鮎（三十 cm 級の大型鮎）で名高い、島根県の江の川中流域で生れ育ちました。

我が家には、古びた大正琴、尺八、蓄音機等があり、物心付いた頃には、レコード針を研磨し、ネジを回しながら浪曲・民謡・流行歌等を常々聞いていた事を覚えております。

父は世話好きで、地域で何か事あることに人が良く集まる家でした。昔の事です。四、五人以上集まると酒盛りが始まり、特に盛り上った時には、父の一言で私も声を張り上げ、皆さんの手拍子で安来節を唄っていました。



副指導部長  
濱崎正人  
(静岡支部長)

## これからの安来節

見ても聞いても  
心はずむ

日本一だよ 安来節

庶民の唄として生活の中ではよくみ育てられた安来節、ほのぼのとした郷愁を誘い、心の安らぎと潤いを与える安来節。安来節保存会が設立し、明治・大正・昭和と独特の魅力で民衆に溶け込み全国的な民謡ブームの波に乗り、急激に発展の道を歩んで来た安来節。歴史と伝統のある正調安来節の真髄を保存普及していく一方、その安来節も平成の時代へ移り変わるとともに一時のブームも去り、低迷期に入り、今安来節保存会、いや日本民謡団体全体の共通の悩み



高橋敏子  
(仁多支部)

安来節は子供の頃から良く聞いていましたが、難しくと、唄った事もありませんでした。母から安来節は向こうの山から跳ね返ってくる様な声で練習しておられたと聞いたのでした。

ある時、伯父から安来節の本を貰



田辺貴子  
(米子支部)

安来節を始めたきっかけは母でした。地元のお老会で「安来節・田子班」として披露したのが、あまりにも華々しく、印象的でした。

それからすぐに、母の師匠である田子夫妻の元に通うようになり、熱心に指導いただき、日々勉強する中で叱咤激励を受けながら五年経ちました。

私が始めて間もなく、長女も習うようになり、今では親子三代励ま



辻千恵  
(和歌山支部)

「テテン テテンテン」で始まる安来節の名調子。この独特なリズムを聞くとうきうきした気分になります。洗練された三味線の音色、鼓の響き、豊かな唄声が合わさって聞く人をウキウキさせてくれるのです。この名調子を自分も演奏してみたくて絃を習い始めました。五十七歳から練習に励む事、十年余り、「どうしたらテンポ良く弾けるのだろう」「どこが違うのだろう」と葛藤の毎日でした。練習して臨んだ資格審査会で昇進出来ず、落ち込んだ事もありました。でも辞めずに十年

い、横田の民謡教室を尋ねたのが、富田とみお先生にお世話になるきっかけでした。飲み込みの悪い私に師範の道は険しいです。准師範の講習会ではあまりのレベルの低さにビックリされた事もありました。この様な私にも先生は手取り足取り、細かく根気強く教えて下さいます。最近やっと静かにテープを聞いてみると先生方の教えが解りかけて来た様な気がします。

松江城山で開かれた「新人コンクール」で頂いた敢闘賞は私の初めての賞です。唯一の宝物です。

合いながら頑張っています。毎年行われる「優勝大会」が、私の夢でもあり、楽しみでもあります。諸先輩方の洗練された舞台を見る度に、益々意欲が湧き、自分自身が奮い立つようです。優勝大会出場を目標に稽古していますが、ここ近年、やむを得ず、通えない日々が続きました。自分の中で、かなり葛藤がありました。田子夫妻に支えられ、今日に至ります。またまた未熟で、思うように唄えませんが、日々練習を重ねて、聴く人に感動していただけるように、精進していきたいです。

安来節保存会の皆様、並びに米子支部の皆様、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

間続ける事が出来たのは、それだけ私にとって安来節が魅力的であったからです。それに加えて安来節保存会和歌山支部の皆さん、先生方、先輩方が温かく指導して下さい、励まして下さったからです。和気あいあいとした雰囲気の中で、一つ一つ丁寧に教えて頂いたお陰で二年前に唄が出来ました。

和歌山支部は、今年、創立二十周年を迎えました。家元四代目渡部お糸先生や長年にわたり御指導頂いた准名人・田村実先生と大師範・北村八重子先生をお迎えして「二十周年記念発表会」を開催出来た事は、この上ない喜びとなりました。二十周年を節目として、これからも益々練習に励み、師範挑戦を頑張りたいと思います。御指導よろしくお願致します。

# 支部交流のあゆみ

出雲街道民謡交流会  
主宰 渡部 孝夫

会報平成25年4月1日付で紹介された「出雲街道民謡交流会」は、恒例の発表会のほか支部交流会を主な活動としています。

東京荒川自主公演、岡山支部の交流、安来節の魅力についてフォーラムの開催で得た感想や意見をもとに交流会スタッフの勉強会を重ね、支部交流に必要な「交流テキスト」が本年6月完成しました。

さて、今年の交流会は岡山支部と伊予道後支部の合同でした。出来る準備は万全です。研修会を重ねてきたスタッフは自信を持って進めることができ、初期の目的を達成しました。

「交流会テキスト」は、5部門の初期から進む段階に応じた基礎を解説しています。

各部門のリーダーは基礎について十分説明ができ、その資料が受講者にしっかりと理解されること。など指導者にとっても手引きになるよう充実した内容になっています。

今回の交流にスタッフと参加者は次のような感想を寄せています。

## 支部交流会感想文集

### ●スタッフの感想

安来節保存会 審査員 石岡 邦宏

（開催準備責任者として）今回交流会が実現できてうれしく思っています。講習会は基本に立ち返るといふ目標は十分達成できたと思います。

複数の科目を受講したかった要望が多くあり、続けて開催できれば成果も上がると思



熱意を受けてパワーを感じ、強い信念がわいたように思いました。

懇親会の時も熱のこもった演技に感動して交流会の素晴らしさと、参加した一員として誇りを感じた一日でした。

### 陶山 朋之

（鼓の部リーダー）

打ち方以外に管理の仕方などこれまで考えたことがない内容にも触れて、新しい視野から改めて安来節を研究する気になりました。この交流会の企画に感謝しています。

### 野々村府美枝

（唄の部リーダー）

交流会の事前基礎勉強会を重ねるうち、これを知り身に着ける必要を感じました。今回の交流は実践で学ぶ機会です。あらかじめ配ってある交流テキストの「発声法」、「発声訓練」、「呼吸法と息継ぎ」、「歌詞の唄い方」、「歌詞の構成」などの基礎を丁寧に意見交換しながら楽しく進めました。特に上位資格者が多い中、とっても熱い交流が出来ました。

### 出雲 啓之助

（踊の部リーダー）

踊はリズムが最大のテーマです。歩き方、腰の動かし方、うまくリズムに乗せることです。教える説明の仕方とコツをつかみ習う者双方が苦労しているところでは、説明の意味は分かっているにもかかわらず、なかなかうまくいかないところ、この交流会は、間の取り方、表情の作りなど意見が出ましたが、最終リズムについての意見交換でした。

### 今村 文子

（鼓の部リーダー）

交流会が始まりすぐに皆様が日常熱心な稽古されていることを感じました。私はこの

わってくる踊だと改めて感じました。

松山支部 銭太鼓師範 井上 浪子

今回の講習会は銭太鼓に参加しました。リーダーから見ると私達の足りないところを指導していただきよかったです。

### 松山支部

参加者Dさん

交流テキストはよい参考書になり、繰り返し読みたいと思います。練習の取り組みは段階を正しく、練習量も多くなど基礎の内容を考えさせられました。銭太鼓の基本は共通でしょうが、同じ流派が理解しやすかったと思います。少しでも少し時間いっぱい教えていただきありがとうございました。

伊予道後支部長 踊師範 白石 和徳

このたびの交流会大変お世話になりました。私は踊りの基礎勉強会に出ましたが、一番よかったのは先生方の演技を堪能できたことです。

### ●参加者の感想

松山支部 踊大師範 三本 善正

今回の講習会は私にとって初めての内容でした。わかりやすく楽しく一人一人が悩んでいることを引き出してくれていると思いました。

今年大師範に昇格させていただき、これから出番が少なくなる寂しさを感じている矢先、この交流会があり手がたえのある勉強になりました。まさに踊りを最初から見つめなおし、どじょう掬いと姿全体から安らぎと懐かしい古き良き情景が伝

今までの研修会以上に意見や質問を中心に進めていただき、深く理解が出来たと思います。

伊予道後支部事務局 長曾我部信義

交流会のために作成していただいたテキストを見て感動させられました。私も25年間5種目にわたり講習会などで安来節を学び指導や指摘を受けました。これを今指導するに当たり忘れていたことを論じられました。今後も繰り返しこのテキストを見て学ぶ必要性を感じています。

伊予道後支部 踊准師範 高岡 有記

一人一人の技能指導の従来の研修と違って、基礎はなんだとの問いに踊の形ではなく「リズム」であることでした。まさに交流テキスト基礎編にある通り、絃のリズムに乗り足腰膝の運びが出来てストリーが完成すれば迫力のある踊ができる。今回の研修で知ることができ、今までと違った角度から勉強になり納得しました。以上を基本として来年の師範審査はあきらめかけていましたが、練習を重ねる師範合格に向けて頑張っていきたいと思います。まことにありがとうございます。

伊予道後支部 鼓二級 高須賀 勉

私は鼓を昨年始めたばかり。今行われた基礎編の講習会は大変役に立ちました。最初に姿勢の大切さのお話でした。自分ではきちんと演奏姿勢が出来ていると思っていた。先生から見れば前傾姿勢で小鼓が下方を向いているので、体を少し起こせば小鼓も正面を向くので姿勢がよくないとアドバイスを受けました。打ち手も開いた状態でしたので今後は正しい基礎練習をしたいと思います。

伊予道後支部 唄准師範 橘 幸子

今までにない充実したものでした。午前午後とも唄を受けました。私は年齢的なものもあり息継ぎがとも下手で悩んでおりました。今度は呼吸法も丁寧に指導され、これを早く自分のものとしていくつもりです。

伊予道後支部 絃一級 田中 京

「今日は基本をやります。質問は何でも受けます。答えます。本音でお話ししましょう。」この言葉の意味はすぐ理解できました。わからなければ先生の話をささげてもよし、都度わからないところは、一方的に聞くだけの講習会とは一味違う、理解を確認し



# 支部情報

## 第一回

### 安来節首都圏支部 合同研修会を終えて



棚橋 保 (東京支部長)

はじめに、東京支部は十八年目にして新しい取り組みを試みた。

一つ目は優勝大会三日目の団体戦に出場した事である。私は、東京支部を立ち上げた平成八年より十年以上前から優勝大会を個人的に見学、傍聴して来た経験から見ると、正に夢のような思いをしたものである。

二つ目は今回初めて安来節保存会首都圏支部（関東・大江戸・大利根・東京）合同で研修会を開催した事である。開催するにあたって幾つかの案があったが、首都圏支部の現状を鑑みた時、安来節の技倆の向上が急務であり、それに役立つものとしての「研修」が必要ではないかという事になった。

三つ目は安来節を習得する困難性としての遠距離の問題をもっと早く合同で話し合えなかったかという問題もあったが、支部自身が会員全体に技倆の普及徹底を図る困難性



に対応するのに精一杯だったという事に尽きた。以上の状況を踏まえて、安来節保存会成相専務理事兼事務局長より「それぞれの支部が取り組んで来た枠を越え、共にレベルアップを図る取り組みを」呼び掛けに首都圏支部が答えて実現したものであった。

一、今回の研修は、総論として、(一)日本民謡の本質・現状について、(二)安来節について、(三)出雲正之助先生の修行時代の話について、(四)各論として実技演習五科目という内容が盛り沢山であったが、今回の目的にふさわしいものとなったと思っ

(一)「東北の唄や踊り等の芸能には厳しい自然と向き合い、幾多の苦難を生き抜いて来た先人の魂が込められております。」民族歌舞団ほうねん座代表・佐藤正信氏。

(二)「音楽というのは、心の安らぎだったり、癒したりするかもしれないけれど、一番深い所の意味っていうのは、人々に勇気を与える困難に立ち向かうものを呼び覚ますようなパワーを与える所にある。」バイオリニスト・荒井英治氏。

(三)「全国大会を始動して半世紀（五十年）、社会生活の変革、多様化する娯楽志向など、社会環境を背景に追分を支えて来た愛好者、支持層の高齢化によって停滞が深刻



になつてゐる。」江差追分大会について(みんよう春秋二一五号)首都圏支部として、特に自戒しなければと思つてゐる。

(4) ピアニストの中村絃子氏の話「クラシック音楽は、世紀の天才達が心血注いで作り上げた芸術です。世界的ピアニストは皆、幼少期にすでに「神童」と言われています。そこからスタートし、生涯莫大な時間を練習に捧げます。そこまですないと表現出来ない世界なのです。」

(二) 安来節について「安来節は、初代家元渡部お糸さんをはじめ、数多くの先輩諸氏の功績によって、今日残された民族芸能であり、民謡文化の尊い遺産であります。私達現代に生を受けたものは、これを正しく受け継ぎ、後世に伝承すべき重大な使命があり、ただ保存継承するのみでなく、時代に即応した研究と普及発展を図るべき大きな責任があります。」(平成二十六年年度版安来節のしおり 31頁) 思うに、変わらないこの大切さと変えて行く事の大切さとの整合性をどのようにして行くのか、取捨選択の連続を含めての妥当性とはどういう事なのか、持続的に研究されなければならないと思う。また社会状況として江差追分大会についての指摘、また「今日の社会全体が大人になれていないと感じています。成熟した人間や文化が尊重されず、簡単でわかりやすいものが評価されています。こういう社会で本物の芸術家が育つのか、とても心配です。」

(三) 出雲正之助先生の修行時代の話について「一口に言つて、大変真摯で滋味溢れる話であつたと思う。九月二十日の初日は、正之助師の師匠二代目出雲愛之助先生、三代目富田徳之助先生、



高山雅市先生等、当時の安来節名人の活躍ぶりを熱心に話されたり、特に昆虫の真似など即興で演じ、見ているお客さんを喜ばせるなど芸人魂の塊のような方々が多く活躍していた話、また高山雅市先生が踊りの衣装について「例え、天皇陛下の前で踊つても恥ずかしくない身なりをしななければいけない。」と言われた等、大変興味を引き、為になる話であつた。

二日目は自分の生い立ちについて・芸について、初めは石見神楽から入り、その後安来節の修行の為、二代目出雲愛之助先生の内弟子になり、今日まで安来節一筋にやつて来た。また島根県も石見地方と出雲地方とは、言葉も違うなど、石見地方出身者としての苦労をされた事など、初めて聞く受講者も多く、感銘を受けた事と思つている。

四 五科目実技演習について

初日は総論としての講義が主体で実技演習は、唄・三味線・鼓の三部門を各支部選択で舞台上がり、直接、手取り足取り指導を受けた。唄は発声練習を参加者全員で行い、その後各自の唄について色々アドバイスを受けた。二日目は銭太鼓と踊りで、どちらも地方は各支部の枠を取り払い、自主的に応援し合い、結果交流ができ、今回の研修の大きな成果になつたと思う。こうして首都圏の技倆の向上は、偏に地方の強化にある事を今回の研修で体験・確認でき、それなりの成果があつたと結論出来たのではないかと思つている。

終わりに、とにかく各支部の迷惑をとつて、協力して頂いた首都圏支部の各支部長、役員の方々、また参加し、勉強して頂いた会員の皆様の協力あればこそと感謝申し上げます。

【資料作成】

- 一、首都圏支部合同研修の目的
- 二、実施要領
- 三、実施要綱
- 四、実技演習項目：唄・絃・鼓・踊り・銭太鼓
- 五、出雲正之助先生プロフィール

【会議日誌】

- 6月30日 第一回・研修目的資料の確認(成相事務局長参加)
- 8月28日 第二回・実施細目の打ち合わせ確認
- 9月20日・21日 研修実施
- 9月30日 第三回・研修総括成果、問題点、今後の実施の場合の検討事項

会場 東京都新宿区 労音大久保会館  
参加人数 合計延べ三百人 (各日百五十人)  
会計決算 首都圏各支部で全額賄う



◆ 会員の声 ◆

驚き！大震災トラウマも癒す力がどじょう掬い踊りに



清野勝利 (大久吉支部)

「しんばらぐぶり(久し振り)に笑つたな。おめえ(あなた)の踊りっこ、本当にどんじょ(どじょう)捕つてる様だな。じよんず(上手)だな」  
「ありがとう、おばあちゃん、誰この仮設住宅に住んでいるの?」「おら一人だ。家も家族も全部津波に持っていかれたのさ。残つたのおら一人だ。こうしてみんな居れば笑いも出るけど、一人になれば流された家族を思い出して、涙が止まらないのさ。でもおめの踊りっこ見て、元気で。明日からガンバツペ(頑張る)」  
石巻市に設けられた、ある仮設住宅集会所でボランティアとして、どじょう掬い踊りと銭太鼓の演技を終えた後、寂しそくに佇む高年齢の婦人との会話の一場面である。

れ、近くの高台に避難して一命を得たが、海岸近くに住む一人娘の夫婦と孫が津波の犠牲になつたそう。後日、警察からの連絡で遺体安置所へ。「かなり変わつていますよ。お顔見ますか?」「どんな顔がやつても、おらの娘だ、遺体が見つかつただけでも良かった」と頬に流れる涙を拭くこともせず、当時の惨事を語つてくれた。  
安来節は、阿鼻叫喚地獄を体験し、余震の揺れにも怯え、この先も難難辛苦の道を感じて居る方々の心をも和ませる力が、具備している事に、どじょう掬い踊りについて、ふざけられる踊りと思つて居る。昨年暮れに実施された、師範研修会に参加させて頂いた時に、指導部の先生曰く「どじょう掬い踊りは、歌舞伎に繋がるものがある」と語られました。今日その主旨が理解出来る様な気がします。並河先生ご指摘の通り「間合い」の芸、軽快な三味線と鼓のリズムに合わせ踊る時は、観て下さる方々以上に踊る本人が悦の世界に没頭だ。改めてどじょう掬い踊りを伝授下さつた先生方に感謝しながら、師範免状を賜つた私の努めは、東北地方の方々に正調のどじょう掬い踊りを理解して頂き、この楽しいどじょう掬い踊りを普及させる事だと思つております。それには事務局及び安来節保存会の方々の御指導、御鞭撻が必要でありますので宜しくお願い致します。

故郷、新潟県高田でどじょう掬い踊りを披露して



尾崎昌代 (東京支部)

私は、力強い白波が立つ日本海と平野を優しく包む緑の山々に囲まれた新潟県の豪雪地・高田(現在は上越市)で生まれ育ちました。

高田といえは、スキーの発祥地、上杉謙信の春日山城などで有名です。また芸能関連でいえば、高田警女が有名です。警女とは盲目の女芸人が家で、特に高田警女は、独特の形態で師匠が家を構え、弟子を養子にして、一つ屋根の下で集団生活をしています。「彼女達は、春、三月深い越後の国の雪解けを待つて本旅に出かけます。その日から大晦日の迫つた十二月二十七日まで、丸一年を旅に明け、旅に暮れるという強靱な歩き手です。盲目である彼女達は前の警女さんの腰肩につかまりながら、どんな険しい山間僻地の陸路も、峠も、谷も、山も、川も越えて、閉ざされた山国の寒村にはるばる娯楽として唄を持ち運んだ」といわれています。

山形県民謡花笠音頭の手「ヤッショマカシヨ」も警女さんが歩いて居る時の掛声を取り入れられたものです。

各村々では、自分の村に警女さんが来る時期になるとそれはそれは楽しみにしていたそうです。警女さんが村に到着すると、庄屋さんの家などに門付けし、近所の人々を集めて三味線を弾き、口説きなどの唄を披露しました。待ちわびた人々は三味線が鳴り響き、警女さんが唄い出すとたちまち拍手と歓声の嵐が起つたそうです。

そんな昔から芸能を生活の一部に取り入れ、楽しんで居た故郷で「どじょう掬い踊り」を踊る機会に今回恵まれました。きっかけは母の知人が現代舞踊の教室を開いており、そこのおさらい会で観客が飽きないように、途中の色物として踊つて欲しいと頼まれたものでした。どじょう掬い踊りは、新潟ではほとんどの人がテレビなどで知つていても、生のどじょう掬い踊りは見た事がないので、噂を聞きつけ県内から人が集まり、私どもの拙い踊りでしたが、一人踊り、二人踊りとステージで披露すると、それはもう笑い拍手喝采の嵐でした。その光景は、待ちわびてやつと警女さんの唄を聞いた村人達の姿と重なり、何ともいえない感動を覚えました。こうしてどじょう掬い踊りを少しでも多くの方々に知って頂けるお手伝いが出来た事に感謝し、これからも技量向上の為に精進して参りたいと思つています。

**濱崎正人の安来節銭太鼓 DVD**

第二弾 発売中

安来節初級・中級・上級の解説・実演  
舞台用・銭太鼓ショー

問い合わせ 080-6964-5349(事務局)

事務局からのお知らせ

●会報「安来節」に原稿をお寄せください。  
安来節との出会いや思い、支部の活動や目標、保存会の今後など話題は自由です。

いずれも600字程度で顔写真(1年以内の物で使用後は返却します)も併せて送ってください。

安来節のしおり(平成二十六年年度版)に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

- 【追加】 湖陵支部 P 134
- ◆二段 銭太鼓 山根洋子
- ◆准師範 銭太鼓 山根洋子